

会 議 録

会議名	平成25年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成25年10月3日(木) 13:30~15:00
開催場所	宇都宮市役所14A会議室
出席者	【委員】保坂寿, 増淵一基, 駒場昭夫, 金沢力, 南木清一, 大森玲子, 島田弘二, 金枝右子, 大手弘子, 上野すみ子, 鱒淵伸敏, 石島孝夫, 遠藤健二, 仲田陽介, 石井智子, 糸井陽子 【事務局】環境部長ほか26名
公開・非公開	公開
傍聴者	2名
議題	1. 委員紹介 2. 仮議長選出 3. 会長選出 4. (1) ごみ排出量の状況及び3R施策の取組状況について (2) 次期最終処分場の適地調査について 5. その他
会議結果	1. 報告内容に異議なし

会議内容	
ごみ排出量の状況及び3R施策の取組状況について	
保坂委員	事業系ごみの搬入指導の強化のうち, 不適正排出事業所への訪問指導とあるが, 不適正排出とは具体的にどのような排出の仕方であるのか。
事務局	清掃工場には事業所から排出される一般廃棄物が搬入されるが, 搬入された廃棄物の中に資源化できる紙類, プラスチック製容器包装, 場合によっては産業廃棄物を混入している事業者があり, 状況により, 搬入を拒否するなどもしているが, 基本は訪問指導を行い, 適正な排出指導を行っている。
石井委員	分別の誤った認識のうち主なものはどのようなものか。
事務局	メモ用紙や雑誌などの紙類が焼却ごみに混じっている現状が多く見受けられるので, 資源物を収集する曜日に出すよう伝えている。
島田委員	リサイクル推進員が各地域で活躍しているが, 住民1人1人が認識することによって事業が効果的に進むと考えられる。地域では, 文化祭や清掃工場の見学会などが1年に1回あるが, 行政もきめ細やかで積極的なアプローチを行うことで効果が得られるのではないか。市職員が出前講座等に出向いているが, 地道な取組により地域住民からの協力が醸成されると考える。積極的に今まで以上に取り組んでほしい。

事務局	これまで、地域に入って分別講習会を実施したり、地域の文化祭に参加させていただいていたところである。今後とも、ご理解いただけるよう、推進に努めてまいる。
会長	さらなるPRを行ってほしい。
上野委員	剪定枝の資源化事業で、市民へのチップ配布が始まり、公共施設におけるチップの利活用とあるが、チップはどのような状態で渡して、どのように利用されているのか。公共施設ではどのように利活用を行うのか。
事務局	チップとは、家庭で剪定された枝を細かく砕いたものであり、希望者はごみ減量課に申し込んで、南清掃センターで配布している。 用途としては、ほとんどの方が庭に撒いて防草を図っているようである。防草効果が見込めるのであれば、市の施設の除草費用が節約できると考えられることから、実証結果やチップを配布した方からのアンケートから効果を検証したい。 後ほど、チップの現物を回すので、参考にご覧いただきたい。
金沢委員	9月から3週間で22tのチップを市民に配布したことは好評であると考えているが、これからどのように推進していくのか計画を伺いたい。 また、レアメタルの資源化が前年度比2.4倍とあり、10月からはさらに品目拡大とあるが、回収拠点はどう考えているか。
事務局	剪定枝の受入れは、清掃工場に直接持ち込まれるものに限定しているところであり、持ち込み量も多いことから引き続き資源化を図っていきたいと考えている。持ち込まれた剪定枝は収集コストをかけずに資源化できるので、まずはこの体系ですすめたい。 小型家電は、現在収集拠点を5か所としているが、拠点を増やすことを検討していきたい。
金沢委員	剪定枝は持ち込みに限定しているが、道路の剪定による剪定枝はどのように処理しているのか。
事務局	道路の剪定は造園業者に委託しており、既に民間施設により資源化に取り組んでいるところであり、引き続き、資源化に誘導していきたいと考えている。
大森委員	剪定枝の資源化はどのように市民に広報しているのか。
事務局	9月の広報誌で行ったところである。
金枝委員	剪定枝は南清掃センターの施設でチップ化しているのか。
事務局	民間施設に委託し、チップ化している。
会長	民間施設でチップ化したものを、南清掃センターに持ち帰り、配布しているということか。
事務局	はい。

糸井委員	<p>環境学習センターや清掃工場の施設見学をしたところ、ごみを活用して施設のエネルギーを捻出していることを伺ったが、その前にごみを出さないこと、出したごみの水切りが大切であると感じた。また、地域のごみ量に偏りがあるか聞いたところ、高齢者世帯はごみ量が少なく、学生世帯は分別が悪く、焼却ごみが多いと伺った。</p> <p>それらから、小中学生に対して、環境学習を実践することが大切だと考えた。教育現場と共に実践していくことが大切ではないか。</p>
事務局	<p>小中学生の環境教育としては、小学校4年生の社会の補助教材を作成し、授業の中でごみの出し方等を取り組んでもらっているところである。</p> <p>教材の中にはワークシート形式で「自宅のごみ減量」という項目もあり、実際に取り組んでいただいているところである。今後とも、環境学習の推進を図っていきたい。</p>
石井委員	<p>先ほど、ごみ分別の誤った認識を説明していただいたが、自分が自治会の会合に参加した際にも責任あるごみ出しのシステムがなく、分別されずにごみ出しがされていた。今回、再度会合に出席したところ、袋を手渡され、ごみの持ち帰りのシステムが改善されていた。ごみ出しは分別のルールが煩雑であることから、敬老会や体育祭など人数が多く集まる際にみんなが納得した声かけが必要である。</p> <p>運営事業者が参会者に息の長い取組を、切れ目なく行えるよう、周知徹底することが大切である。分別ごみに誤った認識がないか確認し、行政が広くすくい出し、周知が行き渡るような指示、依頼をしていただきたい。</p> <p>街中のごみから悪臭が発生している場合があり、各家庭で簡単に行える水切りの用具があるより徹底できる。きめ細かい投げかけがあるとよいのではないか。</p>
事務局	<p>プラスチック製容器包装はきれいに洗浄し、分別していただいている。地域団体等から発生するごみを各家庭に持ち帰ることは有効であると考えことから、みんなでまちづくり課と連携して周知を進めたい。</p> <p>生ごみの水切りや各家庭で無駄のないエコクッキング、消費期限切れの食品が出ないような調理などを推進していることから、今後とも周知を図りたい。</p>
島田委員	<p>これからの時代は行政主体だけでなく、地区主体で物事を行っていくものと考えている。現在、文化祭や体育祭など大量にごみが発生する際に、ごみの持ち帰りを実施しているが、さらに実施者責任を訴え、行政と協働して責任を全うしたい。</p>
駒場委員	<p>9月末時点で大規模事業者27業者に訪問指導し、不適正事業者10業者に訪問指導したとあるが、今後の計画はどのようなか。また、指導した結果は現れているのか。指導事業者から報告を求めているのか伺いたい。</p>
事務局	<p>大規模事業者は300か所あるが、今年度はオフィス系を選んで、100前後の訪問指導を計画している。</p> <p>指導結果は、通知を行い、改善の必要がある場合には再度訪問を行っている。</p>

会議内容

次期最終処分場の適地調査について

石井委員	<p>福島第一原子力発電所による廃棄物の取扱もあり，市民感情では行政に対する不信感や反発がある。住民が満足 of いくような説明を行い，納得 of いく説明を順次しながら進めていき，置かれる立場や状況による様々な反応へきめ細かく対応していくことが大切ではないか。コンセンサスが得られるような地元説明会や公正な業者選定等の計画は立てていると思うが，異論のないような取組が必要と考えるが，基本的な姿勢があればお教え願いたい。</p>
事務局	<p>最終処分場の建設については，市民の皆様にご理解いただくことが大変重要であると考えている。住民に対しては，早い段階から最終処分場の必要性や調査の過程をお伝えし，皆様の理解に繋げていきたいと考え，今回このように中間報告をさせていただきました。最終候補地の地域に対しては慎重に説明をしたい。</p>
石井委員	<p>安全性を基本として誠意をもって対応いただき，円満にすすめてほしい。</p>
保坂委員	<p>来年3月から1か所を選定するスケジュールとなっているが，公表を行う前に，選定の過程で絞った地域に対して，説明に入るのか。</p>
事務局	<p>最終候補地のあり方や地元説明は慎重に行い，混乱が生じないように行っていきたい。</p>
保坂委員	<p>国と市では異なるが，矢板市の処分場の事例もあるので，慎重に行ってほしい。</p>
金枝委員	<p>上三川町からも候補地を抽出しているのか。</p>
事務局	<p>上三川町の焼却灰もエコパーク板戸で埋め立てしていることから，上三川町も選定のエリアに含めている。</p>